

研修所通信

Training Center News

No. 11

2025.11

発行 令和7年11月

編集

石川県立九谷焼技術研修所

能美市泉台町南2番地
TEL 0761-57-3340 FAX 0761-57-3342
<https://www.pref.ishikawa.jp/kutanike/>



退職者からのメッセージ

迷いを糧に走る一年

退職講師

中村 卓夫 氏



本年はデザイン支援事業開始から20年。担当した10年を振り返ります。

毎年五月。各自アイディアを持ち寄り、翌月までに制作プランをまとめます。そこから9ヶ月間、作品を前に「積み上げ、崩し」のバトルを繰り返しながら、三月の《しいのき迎賓館》の成果品展を目指します。そして年明け一月、各自の展示プラン、及び会場全体の構成を考えつつ、並行してタイトル《進化する九谷「〇〇〇」》の副題も参加者で協議していきます。三月の発表、さらに五月の日本橋百貨店のグループ展へと続く非常にハードなプロジェクトであります。

最初の5年間のタイトルを振り返ります。

／今、生まれる「個」／土から考える／色々な私たち／見つめる先へ／あしたをつくる／

土に向き合い、土に触れ、真摯に取り組む姿勢は悪くありませんが、作家としての視点や覚悟の伺えるモノではありませんでした。

当時の私の「メモ」には

一技術が足りないのは当たり前、誰かにもらった技術で食っていけるほど甘く無い！「技術で喰う」と言うのはそんな事だ。

一卓夫の好みなんて関係ない。自分がどう思うか、納得しているか。etc

「なんだか怒っています」困っている当時の心境が読み取れます。

進化する九谷「こいつはすごいぜ!」

そして令和三年 日本橋百貨店の年末・初売り商戦。一階正面入り口に堂々展開されたのが《進化する九谷「こいつはすごいぜ!」》である。しかも、あの[HERMES]のウインドウの真ん前に位置どり、フロアー・スタッフも観に来るほど、5人によるディスプレイは鮮烈さを放ち、記憶に残るものでした。以後企画展や個展への要請と続く華やかな成果へとつながっています。

以後のタイトル

／探求魂／躍動マッハ／スパーク×破天荒／

に作家として迷いはなく見事です!

「迷い・悩み・挑戦の道へようこそ」

つねに、先輩として心掛けてきたのは「見るコト」「考えるコト」。そして「つくり・悩み・迷う」を共にしてきました。迷えるのも、悩めるのも、作家にとって大切な能力です。

ライバルとしての成長をよろこび、こころより祝福します。共に九谷焼の明日を切り拓いていけることを願っています。

振り返りと感謝

退職職員

藤原 元氏



昭和63年4月から人材育成と商品開発の2本柱で職員として携わり今年3月退職しました。

その間、色々な方々から言葉・メッセージを頂きました。歴代所長の一人からの言葉「これからの九谷を作るのは研修所研修生・卒業生」「研修生・卒業生は我々職員の名刺だよ」業界を担う人材、とくにそれぞれの製造工程を担当する専門職人の不足があり、業界を存続させるためには、この分野でいかに多く後継者を確保していけるかが一つの鍵であるという思いで職員として何をすべきか、何が出来るのかを考え続けて来ました。

業界の方の言葉に「研修所卒業してもロクロ線一本も引けんのか!!」の一言は、当時かなりショックを受けました。その言葉以降、担当した絵付け実習で如何に早く芯を出して線を引くかを取り入れ「やってみせ、言って聞かせ、させてみる」を心に刻み実習を通して産地での作り手、即戦力としての人材育成を目指しました。また、県外・県内講師からの学びは、今、思えば大きな財産となり、研修生の一人として実習を受けた時間があるからこそ今の自分があるような気がします。実習時間が終わっ

ても石膏を削り現場目線で研修生に接して頂いたのは本当に頭が下がりました。

商品開発に関しては、業界の方から多くの学びを頂きました。平成16年度まで実施したパイロットデザイン開発事業でのモノ作りから販売、カタログでの展開、描けば売れる時代からバブル崩壊後の産地の現状など色々な角度から産地を観る機会と業界からの言葉にアンテナをはり、答えを出すことも出来ず何が出来るのかを模索してきました。

能美市との連携の一つに「九谷・新時代の息吹。能美市公募展が今年開催されました。一人の業界人として外側から研修所を観て、卒業生の活躍を観て、職員として、産地で受けた学びを今後は恩返しして行きます。

このような振り返りの機会を頂きありがとうございます。

所長からの言葉「これからの九谷焼産地を作るのは卒業生」です。

九谷焼産地がある限り、九谷焼技術研修所・九谷焼技術者自立支援工房は永久に不滅です。

講師紹介

上絵掻き落とし技法
担当のご挨拶加飾実習 上絵掻き落とし担当
井上 雅子 氏

「研修所の卒業生として後輩に技術を伝えてくれないか」とお声掛けくださったのは、この度退職された藤原先生でした。在学時、決して勤勉でも優秀でもない研修生でしたが、そんな私に上絵掻き落としの時間を任せると仰っていたとき、光栄に感じると同時によくわからない荷物を背負わされた気分でもありました。

掻き落としは鉛筆を使ったことのある人ならば技術的には難しいことはない技法です。それ故に技の特性を捉えて効果的に用いる工夫が見せ所と言えます。カクカクした線や画の中の白と黒の配分など、面白い表現の種はたっぷり含んだ技法なのですが、それを感じ見つけることが出来るか。他の技法といかに組み合わせにくいかなど、幅広い視野と飽くなき探究心を持って取り組むことが大切だろうと思います。まあ、これは何事にも共通したことと言えますが。

授業で私が伝えられることなど本当に何もなければ、折角同じ時間と空間を共有するのだから一緒に何か面白い表現を見つけられたら良いなあと思っています。



伝統を受け継ぐ

成形実習 型おこし担当
宮本 知己 氏

かつて研修生として三年間を過ごした九谷焼技術研修所で、昨年手起し成型の講師をしています。初年度は生徒の頃にお世話になった職員の先生方に温かく見守られながらの授業でした。生徒と講師、両方を経験したからこそ、良い生徒ではなかった己を反省する時間にもなりました。

何となくで手伝っていた家業を自分の生業にすると決めた時に、当時講師をしていた父の勧めもあって研修所に入学しました。家業の手伝いではできない様々な経験や出会いがあり、伝統工芸としての九谷焼を学びました。九谷焼を生業とする家系で生まれ育った私にとっては当たり前のことが、あまり一般的でないことを知るのも新鮮でした。単に「家業を継ぐ」のだけでなく「伝統の技法を受け継ぐ」のだという感覚は、研修所に通ったことで生まれたものです。

伝統工芸士の資格は得たものの、私は未だ修行途中で目指すところは遥か遠く、講師としてはもちろん作家・職人としても到底一人前とはいえません。授業には、「教える」ではなく「伝える」という心構えで臨んでいます。父や祖父や先人達が守り伝えてきたものを次の世代へと繋ぐために、九谷焼の伝統という大きな流れの中で自分なりの「受け継ぐ」の形を見つけないと思っています。



実践を見据えて

基礎実習 運筆担当
山本 大輔 氏

昨年からは運筆の授業を担当しています。少し自分の話になりますが、講師に選んでいただいたときは、絵付の基礎となる授業でしたので、身の引き締まる思いでした。しかし不思議と不安はなく、生徒の皆さんと一緒に学びあえる喜びが大きく、素直にうれしかったことをよく覚えています。運筆の授業をするにあたって、私がまず一番に思ったことは、人それぞれやり方や教え方があるかと思いますが、私は自身の経験を基に、すぐに実践で使える筆使いを生徒さんに伝えていけたらと思いました。ただ平面の紙に線をひくのではなく、仕事となってくると様々な器に絵付をすることになるので、それを見据えての器の持ち方、道具の扱い方、見本をしっかりとみる力など、自分のベストパフォーマンスを出せるやり方を一緒に探したいと思いました。もう一つは、品物を完成させるまでの段取りです。無駄を極力省き、仕事をしやすい環境をつくるのが大事だと考えています。なかなか少ない時間で伝えるのは難しいのですが、いつかハッと気づいてもらえることが出来たら幸いです。研修所には、色々な技術を持った先生方が沢山いますし、仲間もいます。この出会いは、必ず皆さんの財産になります。分らないことがあったら聞いたほうが絶対いいですし、何よりこの限られた研修所の時間を楽しんでください。思いのつた絵付を見せてもらえることをこれからも楽しみにしています。

令和7年度から講師に就任いただいた
先生方のご紹介「デザイン支援事業」
板橋 廣美 氏本科1年・実習科
加飾実習「呉須赤絵」
井上 幸晴 氏本科1年
加飾実習「食器制作」
武腰 一憲 氏本科1年
基礎実習「平面構成」
前 伊知郎 氏

研修所からの情報発信に関するお願い

名簿へのメールアドレス登録にご協力ください

研修所では卒業生・修了生の名簿を管理し情報発信を行っています。今後、その運営において情報発信の迅速化を目指しメールアドレスの登録を増やしたいと思えます。ご自身が確認しやすいアドレス情報を右記の二次元コードを読み込み、必要事項を入力いただき送信してください。アドレスの変更や、登録が不明な方もお知らせしてください。なお、頂いた個人情報は当所の運営活動のみに使用いたします。



参加してみませんか

デザイン支援事業について

今年度から板橋廣美先生に加わっていただき、畝野裕司先生と共に商品開発・販路開拓のアドバイスをいただいています。制作・販路などに悩みをお持ちの方は是非ご参加ください。お申し込みは来年4月です。まずはご相談ください。



夏期講座について

九谷焼従事者を対象に実施している夏期講座では、今後も皆さんのご意見を取り入れた講座を開催したいと考えております。左上メールアドレス登録フォームに講座内容に関する要望を記入する欄を設けましたのでご記入ください。

※夏期講座のご案内は組合加入者の方には組合からの配信になります。なお当所の名簿登録に於いて組合加入者の方と同一住所になっている方は、組合からのご案内で確認をしてください。当所名簿にメールアドレスの登録をされている方には当所からのメールも配信しますのでアドレス登録をお勧めします。

募集に関する
お願い

01 | 個室工房入居者募集について

現在、個室工房入居者を随時募集しています。九谷焼製造に関わる機材が揃っていること、また起業しようという方へのサポートも充実している施設です。ご興味のある方はお問い合わせください。また、九谷焼従事者の方で工房を探している方がいらしたらご紹介をお願いいたします。

02 | 研修生募集について

九谷焼の作り手になりたい方を募集しています。モノづくりや九谷焼に興味をお持ちの方に当所のことをご紹介ください。

編集後記 関係者のご協力のもと第11号を発行することができました。紙面をお借りして執筆いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。